

学びが面白い

「子ども主体の学び」の要となる学校図書館

福山市立神辺中学校

1 はじめに

本校では、すべての教職員で「学びが面白い」と実感する、「子ども主体の学び」づくりに日々取り組み組んでいるところです。

子どもが、知りたいことを調べたり、時には、心穏やかに本に触れたり、学校図書館はすべての子どもの学びの要となっています。小中一貫教育学校図書館補助員のかも借りて、生徒が「行きたい」と思える学校図書館運営を行っています。

2 生徒が「行きたい」学校図書館へ変身!!

児童文学評論家の赤木かん子先生の監修により、平成31年2月に学校図書館をリニューアルしました。赤木先生が、集まった約100名のボランティアに「自分で考えて、作業を行ってください」と伝え、作業開始となりました。初めから主体が問われ「はっ」とした場面です。



壁には温かな模様の布をはり、「十進分類法」をベースに学校図書館向けに工夫した絵と言葉で、「ミステリー」「文学」「防災」などわかりやすい表示をしました。机の配列もあえて、L字型です。



小さな机に「季節のコーナー」をセッティングし、本校の象徴である「ばらのコーナー」や全生徒で取り組んでいる「防災のコーナー」は特徴的です。



「季節のコーナー」



「ばらのコーナー」



「防災のコーナー」

子ども主体の学び

子どもの学びを大切にしよう!!

- 生徒自ら 考える 探す 選ぶ 深める ことのできる授業をつくる。
- 生徒が「行きたい」学校図書館を作る。

きらりルームの取組を広げよう!!

- 不登校ゼロを目指す。
- 心に寄り添う指導を行う。

安心・安全な学校を作ろう!!

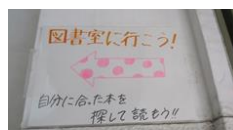
- 学校事故の防止
- 防災・減災教育の推進

地域に貢献しよう!!

- 地域活動、ボランティア活動の推進(ばら壇の草取り等の環境整備)

3 本当にな変わったものは？～生徒編～

畳の上で、くつろぎながら読書したり、読みたい本を探したり、紹介し合ったりしています。来館者数が徐々に増えていきました。同時に図書委員会が活発に動き出しました。



自分にあつた本を探して読もう!! の表示



本の紹介ポスター

毎週水曜日だけであった開館日を毎日開館に変更し、来館者人数を調べ、より多くの人に来てもらうための方法を考えました。それが「自分にあつた本を探して読もうの表示」と「本の紹介ポスター」の作成です。リニューアル前は1日10人に満たなかった来館者が、今では30人を超えています。

4 本当にな変わったものは？～教師編～

学校図書館のリニューアルによって、先生方の意識にも変化が見られました。「学校図書館を学びに」という教師の取組が見られるようになりました。教師が図書館に赴き、生徒に紹介したい本などを手にして、各教科でブックトークを行う場面、授業や部活動においても活用する場面もみられるようになりました。授業や部活動では・・・

〔道徳の時間に〕

1学年では、道徳の時間に「ルールが厳しくても、人々の心が変わらないと本は丁寧に扱われないのではないか」ということ考えるために図書館へ。図書館では生徒が本を手に取りながら、読んだり、考えたり、話し合ったりしながら課題を考えることができました。



〔美術部の活動に〕

美術部は、「ばらを描こう作品展」に応募するために、本物のばらを見て描いていていましたが、細部の書き方をどうすればよいかを知りたくなり、図書館にある大判の書籍を借りて、内容(描写等)を参考にしてその後の制作につなげていきました。



5 今後の神中図書館PLAN

Plan 1

図書の購入

生徒に希望する図書のアンケートを行い購入計画を立てる。

Plan 2

放課後の開館

生徒の学びたい、知りたい、読みたいに答える。

Plan 3

授業改善

授業、その他の教育活動において、積極的に活用する。

Plan 4

図書委員会活性化

図書便りの発行、貸出数の表彰、マスコットキャラクターの設定を行う。